
2026年2月期 第1四半期決算

＜参考資料＞

2025年 6月30日

くらしの「あたらしい幸せ」を発明する。



J. FRONT RETAILING

<1Q決算サマリー>

- ◆ 連結事業利益は、主に百貨店免税売上の減速等により、対前年で△15%減益
- ◆ SC事業とデベロッパー事業は好調を持続し、増収増益
- ◆ 上期・年度業績予想に変更なし。
不確実の高い状況のもと、各社で収益向上策を強化

- ▶ SC事業やデベロッパー事業の売上伸長などにより、総額売上高は2.6%増、売上収益は9.2%増
- ▶ 事業・商品構成変化、販管費増などで、事業利益は138億円、△15.4%減

(単位: 億円、%)

2025年度 (2026年2月期)	1Q (3~5月)		
	実績	対前年	
		増減高	増減率
総額売上高	3,074	76	2.6
売上収益	1,108	93	9.2
売上総利益	526	△6	△1.1
販売管理費	388	19	5.2
事業利益	138	△25	△15.4
その他の営業収益	27	24	881.7
その他の営業費用	6	0.6	12.5
営業利益	159	△1	△0.9
親会社の所有者に 帰属する四半期利益	104	△8	△7.4

(単位: 億円、%)

2025年度 (2026年2月期)		1Q (3~5月)		
		実績	対前年	
			増減高	増減率
百貨店	総額売上高	1,925	△48	△2.5
	売上収益	635	9	1.6
	事業利益	82	△23	△21.8
	営業利益	90	△12	△12.5
SC	総額売上高	848	48	6.0
	売上収益	166	7	4.8
	事業利益	41	1	4.4
	営業利益	54	15	39.0
デベロッパー	総額売上高	245	67	38.0
	売上収益	245	67	38.0
	事業利益	22	5	34.2
	営業利益	22	5	35.0
決済・金融	総額売上高	31	△0.4	△1.5
	売上収益	31	△0.4	△1.5
	事業利益	0.9	△2	△76.3
	営業利益	0.8	△2	△74.1
その他	総額売上高	144	37	34.9
	売上収益	141	37	35.8
	事業利益	△1	△3	—
	営業利益	△2	△4	—

2024年9月1日付のグループ内組織再編に伴い、従来、「その他」に含まれていた株式会社J.フロントONEパートナーの運営事業の一部を「デベロッパー事業」の株式会社パルコスペースシステムズ他へ移管しました。これに伴い、前連結会計年度の期首(2024年3月1日)より移管されたものとみなし、遡及修正しております。

- 国内売上は堅調の一方、免税売上の減速などから、総額売上高は△2.5%減
- 販管費抑制に努めたものの、事業利益は82億円、対前年△21.8%減

(単位: 億円、%)

2025年度 (2026年2月期)	1Q (3~5月)		
	実績	対前年	
		増減高	増減率
総額売上高	1,925	△48	△2.5
売上収益	635	9	1.6
売上総利益	402	△10	△2.5
販売管理費	319	12	4.1
事業利益	82	△23	△21.8
営業利益	90	△12	△12.5

- ▶ 既存店合計は△2.8%減、大阪・関西万博を含む全社合計は△1.2%減
- ▶ 除く免税ベースの売上(既存店)は1.7%増と、堅調を持続
- ▶ 梅田店は大阪・関西万博等に伴う来店客数の増も加わり、10.6%の大幅増収

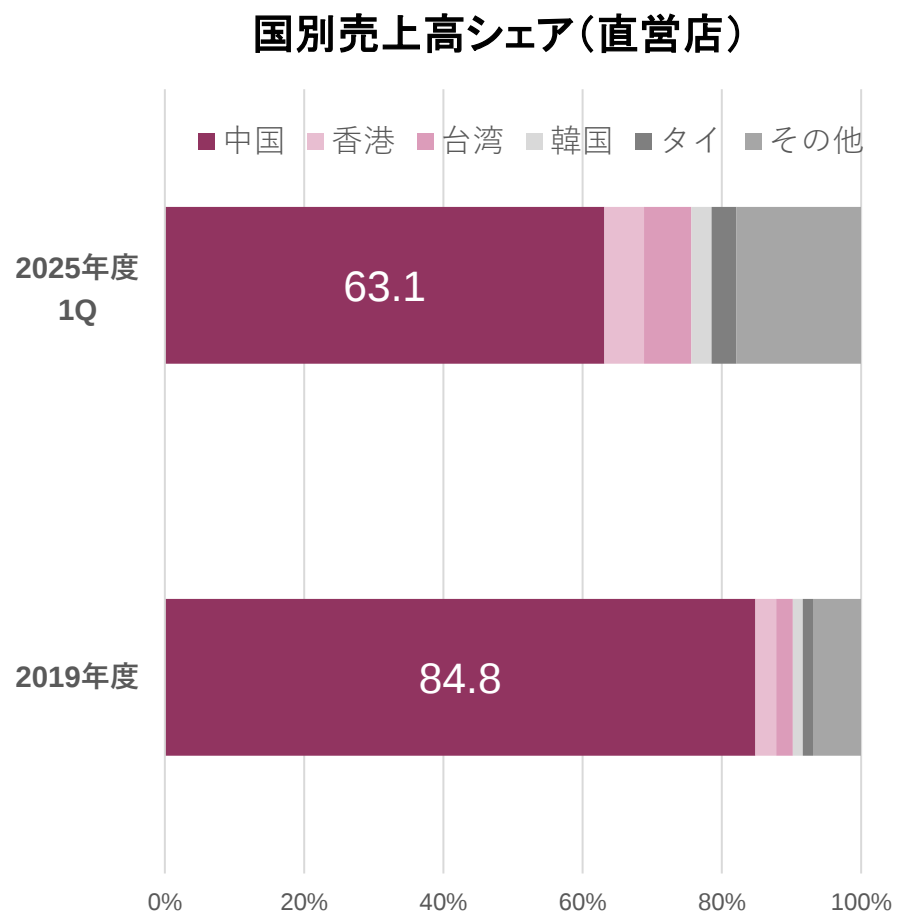
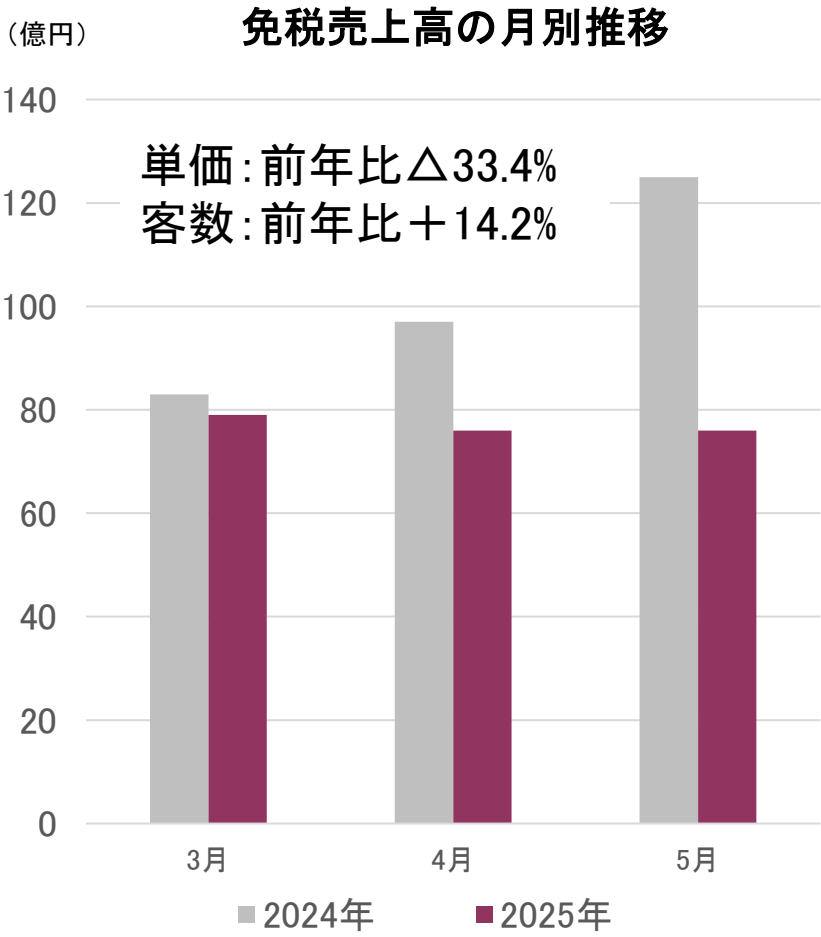
(増減率、%)

2025年度 (2026年2月期) 1Q (3~5月)	対前年比較		
	全体	免税	除く免税
心斎橋店	△9.3	△21.1	1.2
梅田店	10.6	45.4	6.3
東京店	△5.3	△29.1	△2.3
京都店	△13.8	△38.7	△4.9
神戸店	1.7	△27.2	5.1
札幌店	0.1	△21.6	3.8
名古屋店	△0.5	△50.2	4.0
直営店(既存店)合計	△2.8	△23.9	1.7
法人・本社等	33.1	—	—
合計	△1.2	△23.9	3.4

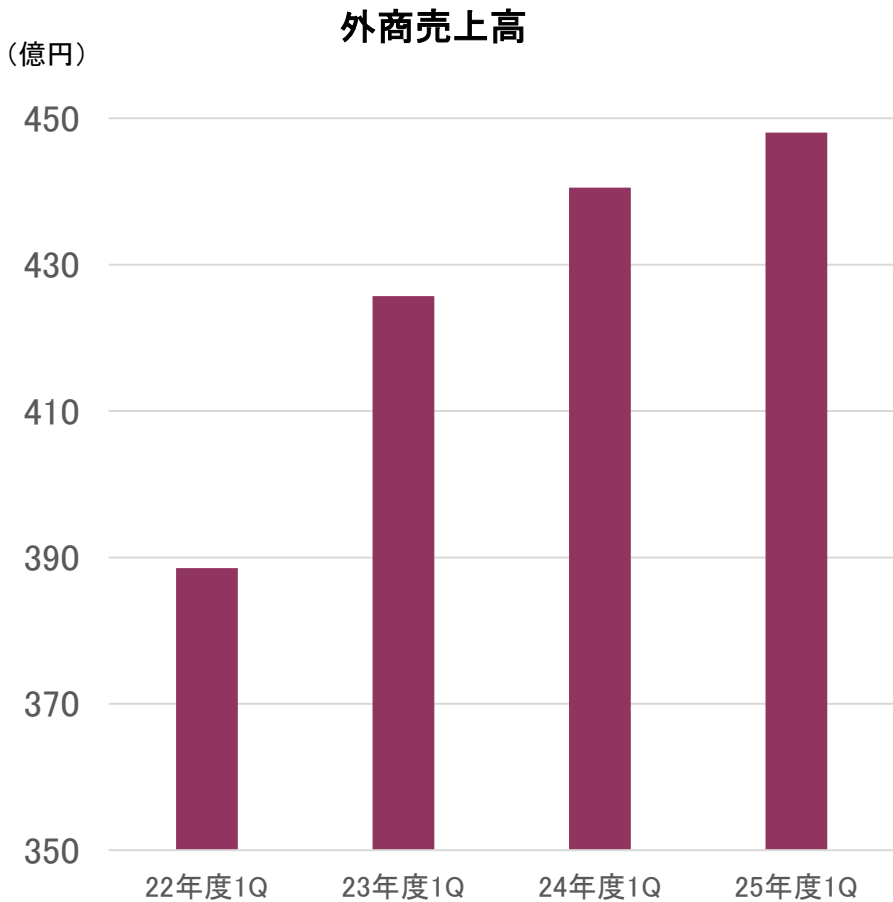
【参考】 対2019年度比較		
全体	免税	除く免税
15.3	3.4	25.3
△2.0	41.9	△6.9
△0.6	83.6	△4.6
6.5	146.3	△5.9
28.7	182.8	23.4
22.1	35.1	20.6
10.8	13.7	10.7
8.5	31.0	5.5
78.4	—	—
11.1	31.0	8.6

※ 直営店合計の2019年度比較は山科店、下関店、豊田店実績を除く

- ▶ 客数是对前年14%増も、為替影響などによる客単価の減少(約△33%)を主因に、免税売上高は約△24%減
- ▶ 中国本土をはじめインバウンド安定化に向けたCRMの取り組みを強化



- ▶ 外商売上高は、金融市場の動向に関わらず、増勢持続
- ▶ 5月に開催した外商大型催事は、来客数、売上ともに過去最高を更新



主に手数料や業務委託費、人件費の増加などにより、対前年14億円の増

(単位:百万円)

項目	1Q (3~5月)	対前年 増減高	対前年 主な増減要因 (3~5月)
人件費	7,700	87	【人件費】 ・従業員給与 +1.4億円
広告宣伝費	2,443	86	
包装配達費	285	9	【その他】 ・手数料 +5.5億円 ・業務委託費 +3.3億円 ・修繕費 +1.4億円 ・消耗品費(水光熱費等) +1.3億円
減価償却費	5,042	△108	
作業費	2,732	152	
その他	10,993	1,202	
販管費合計	29,198	1,429	

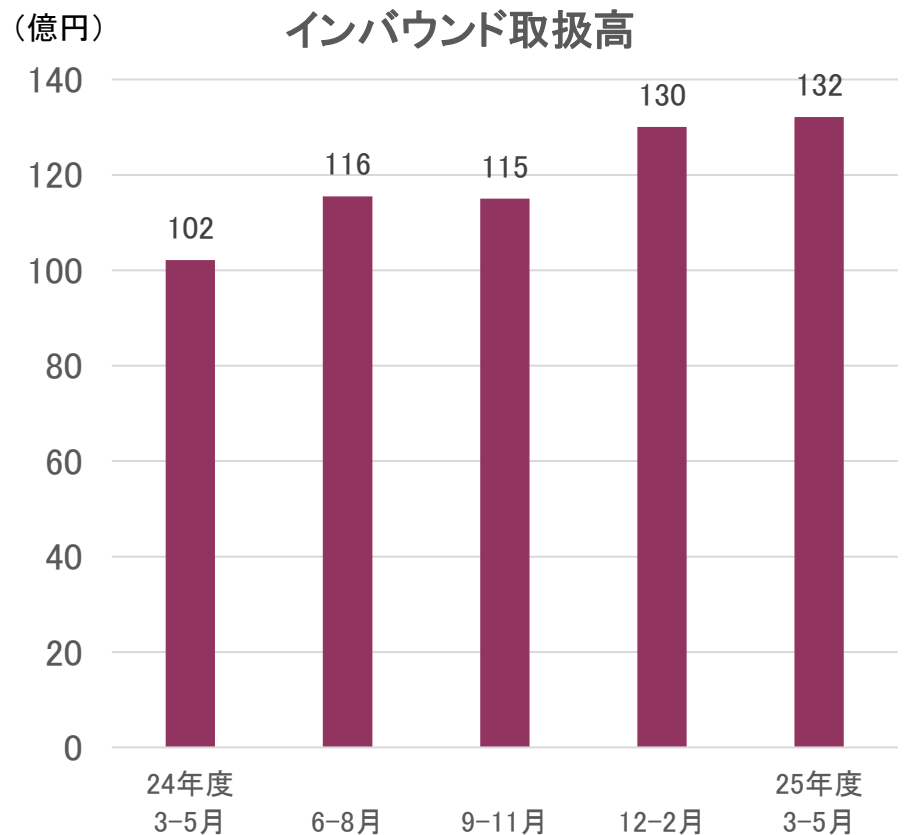
- ▶ 改装効果、国内・インバウンド取扱高の伸長などで、売上収益は4.8%増
- ▶ 売上収益の伸長などにより、事業利益は41億円、対前年4.4%増

(単位: 億円、%)

2025年度 (2026年2月期)	1Q (3~5月)		
	実績	対前年	
		増減高	増減率
総額売上高	848	48	6.0
売上収益	166	7	4.8
売上総利益	67	3	4.7
販売管理費	25	1	5.1
事業利益	41	1	4.4
営業利益	54	15	39.0

- ▶ 訪日外国人客の取り込み効果が大きかった心斎橋、新規大型キャラクターショップが好調な名古屋を中心に好調持続、既存店合計は6.9%増
- ▶ インバウンド取扱高は、為替動向にかかわらず伸長

(増減率、%)		
2025年度 (2026年2月期)	対前年比較	【参考】 対2019年度比較 1Q(3~5月)
	1Q(3~5月)	
札幌PARCO	12.0	21.1
浦和PARCO	2.3	15.6
池袋PARCO	△1.8	△1.0
渋谷PARCO	1.8	2,932.7
調布PARCO	2.1	1.6
名古屋PARCO	14.6	9.9
心斎橋PARCO	16.8	—
福岡PARCO	9.0	21.6
全店合計	5.8	24.8
既存店合計	6.9	7.9



※ 錦糸町PARCOは2019年3月16日、渋谷PARCOは2019年11月22日、心斎橋PARCOは2020年11月20日に開業。
※ 宇都宮PARCOは2019年5月31日、熊本PARCOは2020年2月29日、津田沼PARCOは2023年2月28日、新所沢PARCOは2024年2月29日、松本PARCOは2025年2月28日に閉店。

- ▶ 百貨店や特選ブランド改装工事が好調なJ.フロント建装、及びパルコスペースシステムズを中心に大幅増収・増益
- ▶ J.フロント都市開発は、概ね計画通りの進捗

(単位: 億円、%)

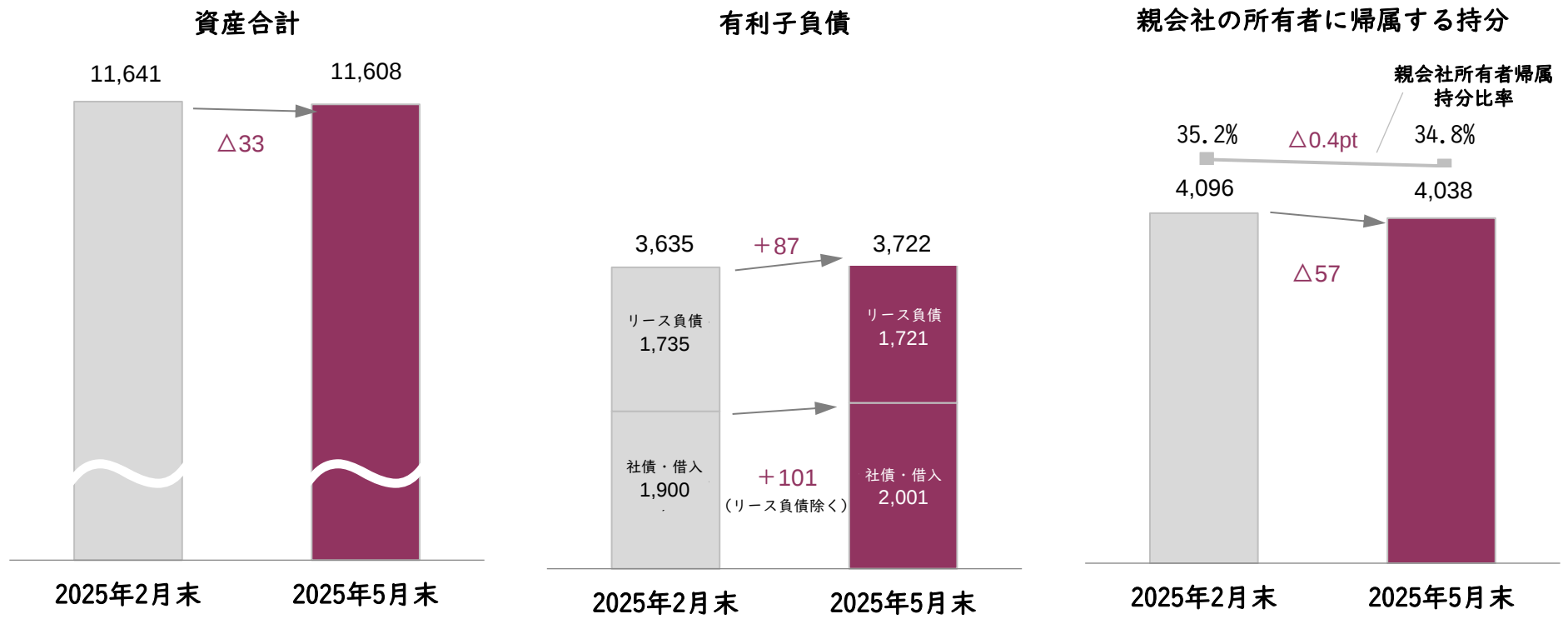
2025年度 (2026年2月期)	1Q (3~5月)		
	実績	対前年	
		増減高	増減率
総額売上高	245	67	38.0
売上収益	245	67	38.0
売上総利益	39	6	18.5
販売管理費	17	0.4	2.4
事業利益	22	5	34.2
営業利益	22	5	35.0

- ▶ 加盟店手数料増加の一方、ポイント費用の増加もあり売上収益は△1.5%減
- ▶ 新カード発行に伴う会員獲得・広告宣伝費用等が増加し、事業利益は△76.3%の大幅減益

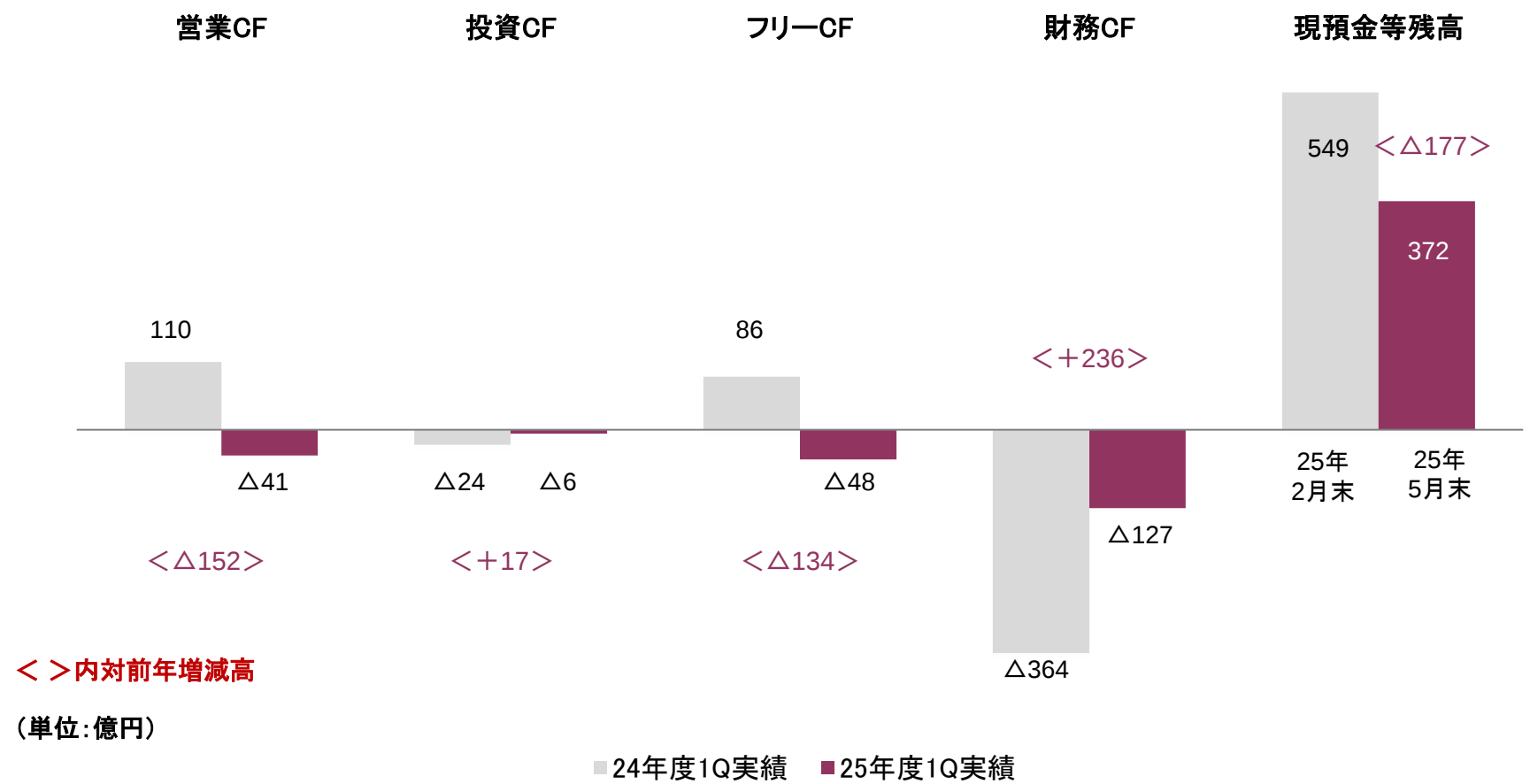
(単位:億円、%)

2025年度 (2026年2月期)	1Q (3~5月)		
	実績	対前年	
		増減高	増減率
総額売上高	31	△0.4	△1.5
売上収益	31	△0.4	△1.5
売上総利益	31	△0.4	△1.5
販売管理費	30	2	8.8
事業利益	0.9	△2	△76.3
営業利益	0.8	△2	△74.1

- ▶ 資産合計は1兆1,608億円、対前期末△33億円減少
- ▶ 有利子負債(リース負債除く)は2,001億円、対前期末101億円増加
- ▶ 親会社の所有者に帰属する持分は4,038億円、対前期末△57億円減少



- ▶ 営業CFは法人税支払額の増加などにより△41億円の支出、対前年△152億円の収入減
- ▶ 投資CFは有形固定資産の売却による収入などにより、対前年17億円の支出減
- ▶ 財務CFは社債の発行などにより、対前年236億円の支出減



Website

<https://www.j-front-retailing.com>

くらしの
「あたらしい幸せ」を
発明する。



J. FRONT RETAILING

本資料における業績予測や将来の予測に関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性その他の要因が内包されております。従いまして、様々な要因の変化により実際の業績は見通しと大きく異なる可能性があることをご承知おきください。